

PayPay投信バランスライト

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第13期(2023年11月10日決算)

作成対象期間(2023年5月11日～2023年11月10日)

第13期末(2023年11月10日)	
基準価額	9,784円
純資産額	1,454百万円
騰落率	△5.5%
分配金合計	0円

(注)騰落率は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算しています。

受益者の皆様へ

平素は「PayPay投信バランスライト」(以下、「当ファンド」という場合があります。)にご投資いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当ファンドは、第13期決算を行ないました。当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に世界各国の株式、債券に投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行なっております。当期につきましても運用の基本方針に沿った運用を行ないました。期中の運用状況につきまして、ご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

PayPayアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区神田錦町一丁目1番地

サポートダイヤル

0120-580446

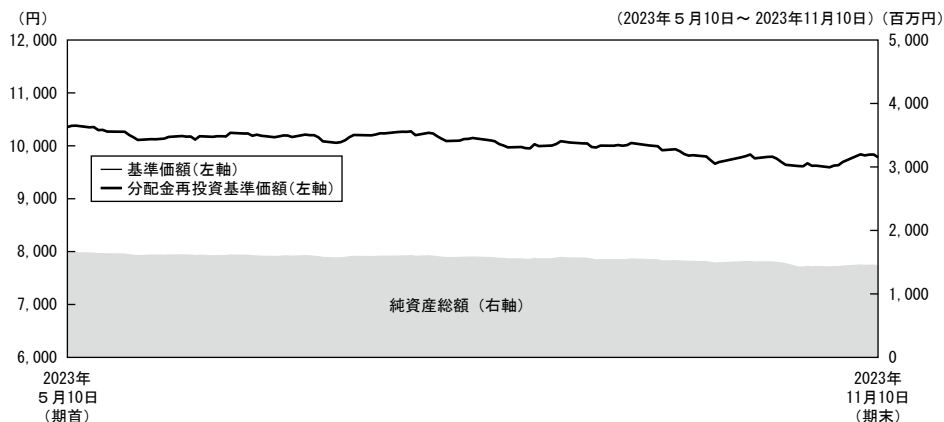
〈受付時間〉営業日の午前9時～午後5時

<https://www.paypay-am.co.jp>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法(投資信託及び投資法人に関する法律第14条第2項に規定する電磁的方法をいいます。)により提供する旨を定めております。上記「サポートダイヤル」に記載の弊社ホームページの「ファンド情報」のページより当ファンドの運用報告書(全体版)を閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

《運用経過》

【基準価額等の推移について】



第13期首：10,355円

第13期末：9,784円（既払分配金 0円）

騰落率：△5.5%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

投資信託証券への投資を通じて、実質的に世界各国の株式、債券に投資を行ないましたが、利上げ継続に対する警戒感などを背景とした米国の債券の下落などを受けて基準価額は期を通じて上値の重い展開となりました。2023年8月以降、世界の株式が冴えない動きとなったことも基準価額の下落要因となりました。組入投資信託証券については、米ドル建てを除く世界の債券を主要投資対象とするバンガード・トータルインターナショナルボンド・ETFは前期末比でほぼ横ばいとなりました。しかし、米国の債券を主要投資対象とするバンガード・トータルボンドマーケット・ETFの下げ幅が拡大したほか、世界の株式を主要投資対象とするiSharesMSCIGlobalミニマムボラティリティファクター・ETFも値を崩しました。

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配を見送らせていただいた場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

【1万口当たりの費用の明細】

項 目	第13期		項 目 の 概 要
	(2023. 5. 11～2023. 11. 10)		
	金 額	比 率	
信託報酬	27円	0.271%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率。期中の平均基準価額（月末値の平均値）は10,011円です。
（投信会社）	(12)	(0.116)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(14)	(0.138)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.017)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	1	0.009	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数。売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（投資信託証券）	(1)	(0.009)	
その他費用	8	0.081	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.020)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.008)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（法定開示に係る費用）	(5)	(0.053)	印刷会社等に支払う目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付等に係る費用
合 計	36	0.361	

* 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

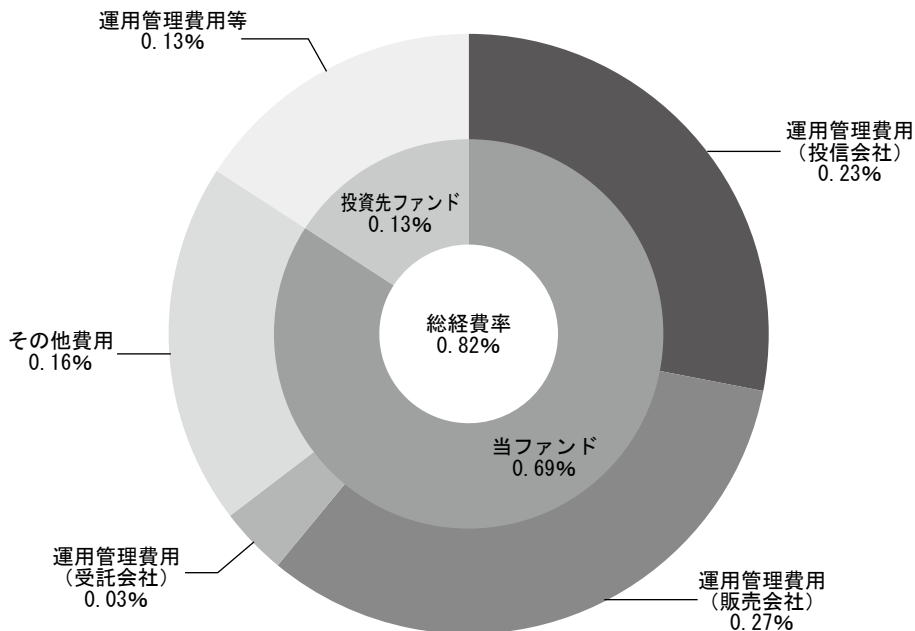
* 「金額」欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.82%です。



総経費率 (①+②)	(%)	0.82
①当ファンドの費用の比率	(%)	0.69
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	(%)	0.13

*①の費用は、1万口当たりの費用の明細において用いた簡便法により算出したものです。

*各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

*各比率は、年率換算した値です。

*投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券です。

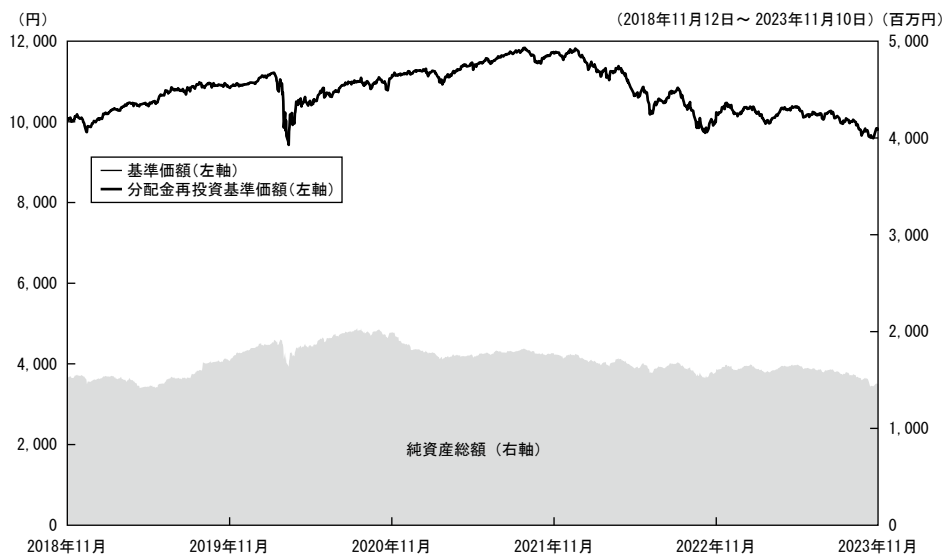
*①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

*①の費用と②の費用は、計上された期間が異なります。

*②の費用は、運用管理費用および運用管理費用以外の合計です。

*上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

【最近5年間の基準価額等の推移について】



* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
なお、分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

		2018年11月12日	2019年11月11日	2020年11月10日	2021年11月10日	2022年11月10日	2023年11月10日
基準価額	(円)	10,103	10,854	11,093	11,733	10,003	9,784
期間分配金合計 (税込み)	(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	7.4	2.2	5.8	△14.7	△2.2
純資産総額	(百万円)	1,533	1,698	1,990	1,778	1,575	1,454

* 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動することを運用の基本方針とはしていないため、該当するベンチマーク等はありません。

【投資環境について】

株式

米連邦準備理事会（FRB）が利上げを停止するとの見方が強まったことや総じて良好な企業決算、米国経済のソフトランディング期待などを背景に期初から2023年7月までの世界の株式はグロース株を中心に総じて堅調な展開が続きました。しかし、大手格付機関の米国国債の格下げを背景としたリスク回避の動きや米国の長期金利の上昇などを受けて8月から10月下旬にかけては下落基調で推移しました。期末にかけては経済指標の鈍化などを背景に米国金利が低下したことなどから値を戻しました。

債券

米国の金融機関の破綻に伴う金融システム不安の高まりなどが下支え要因となりましたが、堅調な経済指標などを背景に欧米の国債利回りは期初から上昇（債券価格は下落）基調で推移しました。その後も、金融引締め長期化観測から米国の10年物国債の利回りが2007年7月以来の5%台をつけるなど売りが優勢な展開となりました。しかし、経済指標の鈍化を受けて米国の利上げ停止期待が高まったことなどから2023年10月下旬以降の欧米の国債は値を戻しました。なお、7月の日本銀行の金融政策決定会合で長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）の柔軟化が決定したことなどを受けて日本の国債利回りも大きく上昇しました。

※上記は、投資対象とする投資信託証券の値動きに基づき記載しています。

【ポートフォリオについて】

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に世界各国の株式、債券に投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行なうことを基本としています。資産配分は、信託財産の純資産総額に対し株式50%、債券50%を目安としています。また、投資信託証券の投資割合は、原則として高位を保つことを基本としています。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行なうこととしています。

当期も運用の基本方針に則り、投資信託証券の組入比率は、概ね90%台を維持するとともに、資産配分は、株式50%程度、債券50%程度で推移させました。外貨建資産については、ほぼ全額為替ヘッジを行ないました。なお、当期において、投資対象とする投資信託証券の見直しは行ないませんでした。

【ベンチマークとの差異について】

当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動することを運用の基本方針とはしていないため、該当するベンチマーク等はありません。

【分配金について】

収益分配金（1万口当たり、課税前、以下同じ）については、基準価額の水準や分配原資の積み上がり状況等を勘案し、分配を見送らせていただきました。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し元本部分と同一の運用を行いません。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項 目	第13期	
	2023年5月11日 ～2023年11月10日	
当期分配金(税込み)	－円	
(対基準価額比率)	－%	
当期の収益	－円	
当期の収益以外	－円	
翌期繰越分配対象額	2,016円	

- * 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（評価益を含む）」から分配に充当した金額です。
- また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- * 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
- * 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

《今後の運用方針》

今後も投資信託証券への投資を通じて、実質的に世界各国の株式、債券に投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行なってまいります。資産配分については、株式50%、債券50%を目安とする方針です。

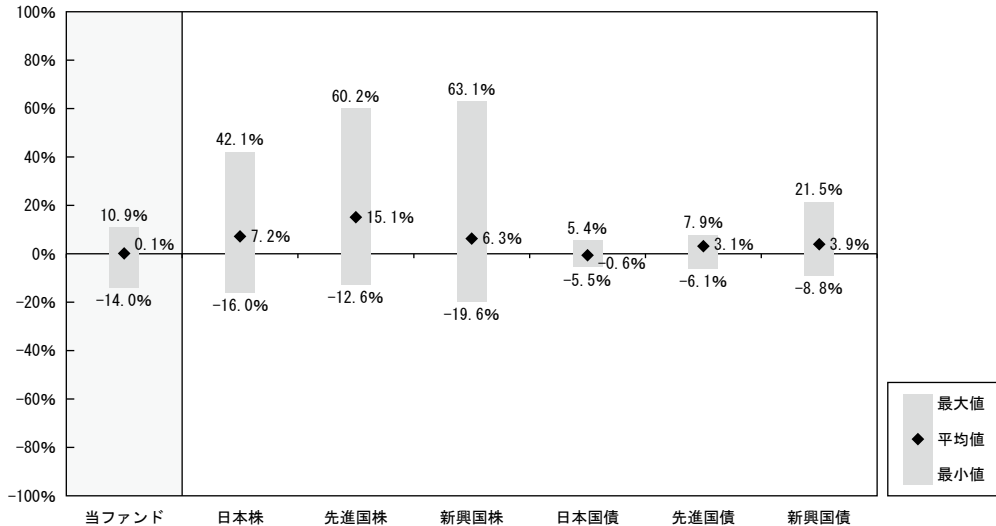
今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

《当ファンドの概要》

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限です。ただし、元本金額が10億円を下回った場合などはファンドを終了（繰上償還）させる場合があります。
運用方針	この投資信託は、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。
主要投資対象	主として、投資信託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号に規定する投資信託及び外国投資信託の受益証券並びに同項第11号に規定する投資証券及び外国投資証券をいいます。）に投資を行ないます。
運用方法	<p>①主として、インデックス型の投資信託証券※への投資を通じて、実質的に世界各国の株式、債券に投資を行ないます。</p> <p>※インデックス型の投資信託証券とは、各種指数に連動する運用成果を目指す投資信託証券をいい、この投資信託においては、別に定める投資信託証券に限るものとします。なお、別に定める投資信託証券は、運用実績等を勘案し、委託者の判断により変更となる場合があります。</p> <p>*別に定める投資信託証券</p> <p>別に定める投資信託証券は次のものをいいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iShares MSCIグローバルミニマムボラティリティファクター・ETF ・バンガード・トータルインターナショナルボンド・ETF ・バンガード・トータルボンドマーケット・ETF <p>②運用実績等を勘案した上で投資信託証券の選定等を行ないます。</p> <p>③投資信託証券の投資割合は、原則として高位を保ちます。</p> <p>④外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないます。</p>
分配方針	<p>①毎決算期に収益の分配を行なう方針です。ただし、基準価額の水準や市場動向等を勘案して収益の分配を行わない場合もあります。</p> <p>②分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。</p> <p>③信託財産に留保した収益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づき元本と同一の運用を行ないます。</p>

〈 参 考 情 報 〉

◆代表的な資産クラスとの騰落率の比較



・上記は、2018年11月から2023年10月の5年間ににおける1年騰落率の最大・最小・平均を代表的な資産クラスについて表示したものです。

・各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBP-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※騰落率は直前月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

《ファンドデータ(2023年11月10日現在)》

【当ファンドの組入資産の内容】

■組入(上位)銘柄

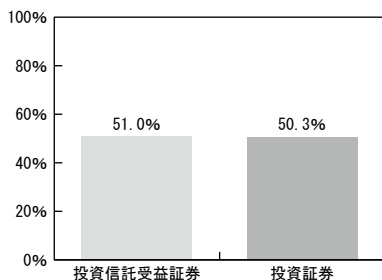
(組入銘柄数：3銘柄)

	銘柄名	比率(%)
1	iShares MSCIグローバルミニムボラティリティファクター・ETF	50.3
2	バンガード・トータルボンドマーケット・ETF	25.5
3	バンガード・トータルインターナショナルボンド・ETF	25.5

*比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

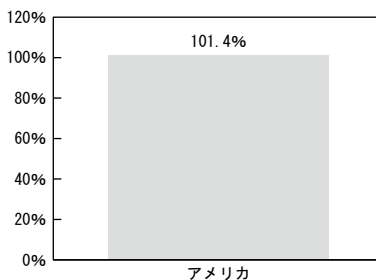
*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■資産別配分

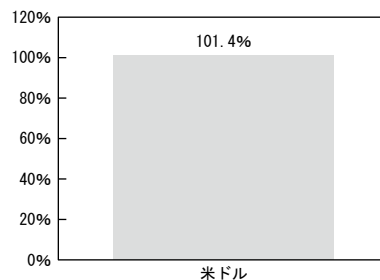


*比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

■国別配分



■通貨別配分



【純資産等】

項目	第13期末
	2023年11月10日
純資産総額	1,454,466,872円
受益権総口数	1,486,641,174口
1万口当たり基準価額	9,784円

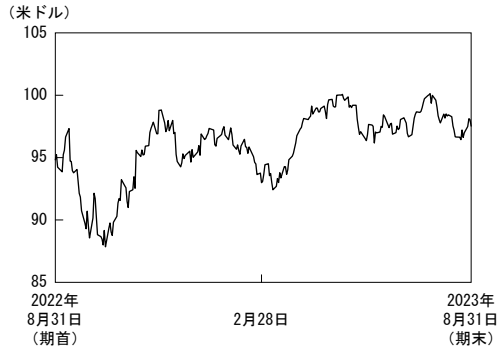
*当期中における追加設定元本額は131,219,910円、同解約元本額は239,870,634円です。

【組入上位ファンドの概要（2023年8月31日現在）】

◆ iShares MSCI グローバルミニマムボラティリティファクター・ETF

(計算期間 2022年9月1日～2023年8月31日)

■ 基準価額の推移



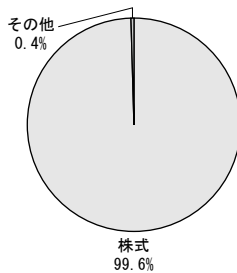
■ 組入(上位)銘柄

(組入銘柄数：382銘柄)

	銘柄名	比率(%)
1	MERCK & CO INC	1.4
2	WASTE MANAGEMENT INC	1.4
3	ELI LILLY	1.4
4	WALMART INC	1.3
5	CISCO SYSTEMS INC	1.3
6	PEPSICO INC	1.3
7	JOHNSON & JOHNSON	1.3
8	MOTOROLA SOLUTIONS INC	1.2
9	GILEAD SCIENCES INC	1.2
10	MCDONALDS CORP	1.1

*比率は、純資産総額に対する比率です。

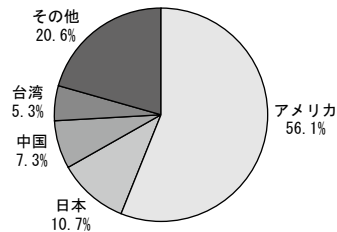
■ 資産別配分



*比率は、純資産総額に対する比率です。

*通貨別配分は、取得できないため記載していません。

■ 国別配分



■ 1万口当たりの費用の明細

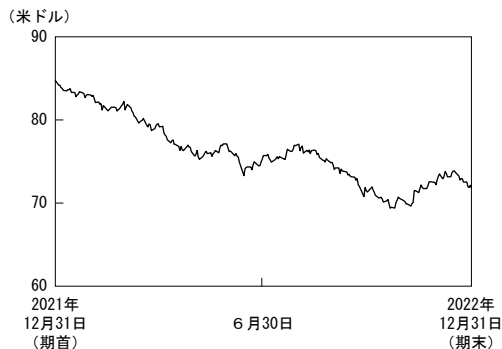
直近計算期間末時点における「1万口当たりの費用の明細」が取得できないため記載していません。

【組入上位ファンドの概要（2022年12月31日現在）】

◆バンガード・トータルボンドマーケット・ETF

(計算期間 2022年1月1日～2022年12月31日)

■基準価額の推移



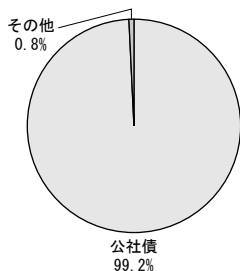
■組入(上位)銘柄

(組入銘柄数: 10,110銘柄)

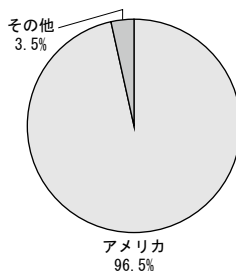
	銘柄名	比率(%)
1	United States Treasury Note/Bond	0.6
2	United States Treasury Note/Bond	0.6
3	United States Treasury Note/Bond	0.5
4	United States Treasury Note/Bond	0.5
5	United States Treasury Note/Bond	0.5
6	United States Treasury Note/Bond	0.5
7	United States Treasury Note/Bond	0.5
8	United States Treasury Note/Bond	0.5
9	United States Treasury Note/Bond	0.4
10	United States Treasury Note/Bond	0.4

*比率は、純資産総額に対する比率です。

■資産別配分



■国別配分



*資産別配分は、純資産総額に対する比率です。国別配分は、ポートフォリオ部分に対する比率です。

*通貨別配分は、取得できないため記載していません。

■1万口当たりの費用の明細

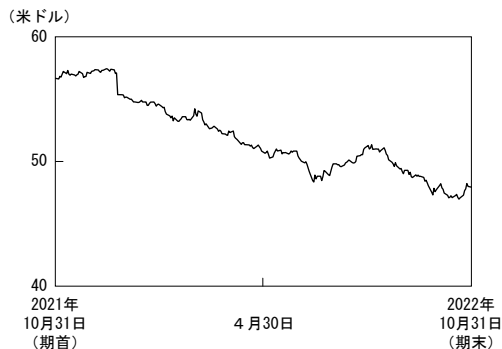
直近計算期間末時点における「1万口当たりの費用の明細」が取得できないため記載していません。

【組入上位ファンドの概要（2022年10月31日現在）】

◆バンガード・トータルインターナショナルボンド・ETF

(計算期間 2021年11月1日～2022年10月31日)

■基準価額の推移



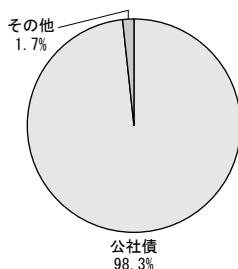
■組入(上位)銘柄

(組入銘柄数：6,863銘柄)

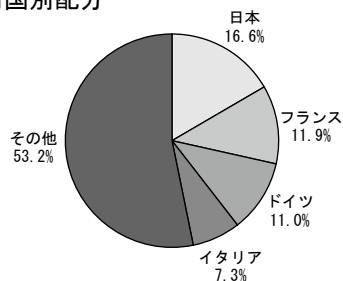
	銘柄名	比率(%)
1	Spain Government Bond	0.6
2	French Republic Government Bond OAT	0.5
3	Italy Buoni Poliennali Del Tesoro	0.5
4	Bundesschatzanweisungen	0.5
5	Spain Government Bond	0.5
6	Bundesobligation	0.4
7	Italy Buoni Poliennali Del Tesoro	0.4
8	French Republic Government Bond OAT	0.4
9	Italy Buoni Poliennali Del Tesoro	0.4
10	Spain Government Bond	0.4

*比率は、純資産総額に対する比率です。

■資産別配分



■国別配分



*資産別配分は、純資産総額に対する比率です。国別配分は、ポートフォリオ部分に対する比率です。

*通貨別配分は、取得できないため記載していません。

■1万口当たりの費用の明細

直近計算期間末時点における「1万口当たりの費用の明細」が取得できないため記載していません。